

第12回 成果の発表 (1)

今後のスケジュール

第12回 (2014-07-02)	アウトライン（骨組み）を考える、レポートを作成する	
第13回 (2014-07-09)	レポート（下書き）を提出して添削を受ける	プレゼンテーションを作成する
第14回 (2014-07-16)	レポートを修正する	プレゼンテーションを練習する
第15回 (2014-07-30)	最終レポートを提出する	本番のプレゼンテーションをして、相互評価する

アウトラインの作成

レポート全体のアウトライン（大まかな内容；骨組み）をまとめて、書くことの方針を決めておくと、レポート作成がスムーズに進みます。

- テーマに関するキーワードを選び出し、基礎的な情報を十分調べておく
- アウトライン作りは試行錯誤して行う（テーマや問い・主張の変更があってもよい）
 - 序論：「テーマ」について「問い」（クイズ文形式）を立て、答えの予想（仮説）を考える
 - 本論：答えの予想を支える「理由」として複数の「事実」、「用語・概念の解説」を積み重ねる
 - 結論：全体を短くまとめ、「問い」をより深めるための「今後の展望」を考えておく

引用のしかた

「引用」とは、レポートや論文のなかで自分の意見を明確にするために、他の文献の意見や考えを紹介することです。

引用で一番注意すべきことは、**どの部分が引用なのか**をわかるように書くことです。**他人の意見を自分の意見のように書く**ことは、他人の文章を盗んで自分のものとして発表する「盗作」、いわゆる「**剽窃**」は絶対に行ってはいけません。

また、引用だけで自分の意見を述べるのではなく、引用は必要最低限にとどめて書くことも大事です。

1. 要約して引用：必要かつ十分な長さで要約する
2. 短い引用（2行以内）：引用文をカギカッコ（「」）でくくる

安田（1997）は、人々から組織の関係をとらえるのに「現象から記号（すなわち）モデルを投資するような柔軟性を備えなければならない」と述べている。

3. 長い引用（3行以上）：引用文の前後に1行空けて、左側を2～3文字分下げする

安田は、『ネットワーク分析』のなかで、次のように述べている（安田 1997）。

言葉をかえて言うならば、「行為者の行為を、個人的な属性からではなく、その行為者を取り囲むネットワークによって説明する」ための分析をおこなうのが、ネットワーク分析です。

つまり……

なお、2番目や3番目のような引用では、元の文章と一字一句正確に同じであることが大事です。勝手に加筆・訂正してはいけません。

引用するときは必ず、（次に説明する）どの参考文献から引用したかがわかるように、「河野(2014)は」「河野(2014)によれば」や「…である（河野，2014）。」のように著者の名字と発行年（出版年）を書いて、引用元を明らかにします。

参考文献の示し方

引用したり参考にした資料・文献があれば、その出典（情報の出所）を「参考文献」として書きだしておきます。

なお、参考文献として示すのに必要な情報は、書籍の場合は奥付（巻末の著者・出版社などの情報が書かれた部分）に、論文や記事の場合は余白部分などに書かれています。

1. 単行本（単著、共著）

○書式：著者名（出版年）『書名』，出版社。

- 例：安田雪（2001）『実践ネットワーク分析』，新曜社。
- 例：増田直紀・今野紀雄（2005）『複雑ネットワークの科学』，産業図書。

2. 単行本（編著）

○書式：編著者（出版年）『書名』，出版社。

- 例：佐藤嘉倫・平松閣編（2005）『ネットワーク・ダイナミクス』，勁草書房。

3. 翻訳書

○書式：原著者名（出版年）『書名』，翻訳者名，出版社。

- 例：アルバート＝ラズロ・バラバシ（2002）『新ネットワーク思考』，青木薫訳，NHK出版。

4. 学術雑誌の論文・記事

○書式：著者名（発行年）『論文名・記事タイトル』『雑誌名』，巻・号，ページ。

- 例：中山洋・大和雅俊・山口正二・玉田和恵・松田稔樹（2007）『情報ののぞき見を題材とした情報モラル指導教材へのVRの活用に向けた実験的研究』『教育システム情報学会誌』，Vol.24 No.1，pp. 26-34。

5. インターネット上の情報

○書式：著者名または発行者名「ウェブページの題名」，URL（参照 閲覧した西暦での日付）。

- 例：総務省「平成25年度 情報通信白書」，<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/h25.html>（参照 2014年6月25日）。

6. 新聞・雑誌の記事

○掲載紙（紙）名（発行年）『記事の題名』発行日時 朝刊・夕刊と面数。

- 例：朝日新聞（2014）『日本語版ネット無料講義開始 有名大教授らの授業』2014年4月18日 朝刊34面。

参考文献のリストを書くときには、次のことに注意してください。

- ・複数の参考文献を書くときは、著者名の名字のアルファベット順に並べる
- ・同じ著者で、同じ発行年（出版年）の文献を挙げる場合は、発行年の後に a、bとアルファベットを追記しておく
- ・参考文献の示し方には、分野や年代によって書き方の違いがあること（ただし、何を書くかはだいたい同じ）

参考文献

- ・科学技術振興機構「参考文献の役割と書き方 科学技術情報流通技術基準 (SIST) の活用」，http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST_booklet2011.pdf（参照 2013-07-01）。
- ・藤田哲也編著「大学基礎講座 改増版」，北大路書房（2006.03）
- ・南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」，北樹出版（2011.04）
- ・学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」，くろしお出版（2011.03）
- ・石坂春秋「レポート・論文・プレゼン スキルズ」，くろしお出版（2003.03）。
- ・佐藤望編著，湯川武，横山千晶，近藤明彦「アカデミック・スキルズ」，慶応義塾大学出版会（2006.10）。
- ・小笠原喜博「大学生のためのレポート・論文術」（講談社現代新書 1603），講談社（2002.04）。
- ・河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第3版」，慶応義塾大学出版会（2002.12）。

- 泉忠司「90分でコツがわかる！『論文&レポート』の書き方」, 青春出版社 (2009.07).